

# いのはな便り

肺がん CT 検診認定機構メールマガジン  
第7号 (2014年11月号)

---

## 米国の医療保険制度とCT検診への給付

東京都予防医学協会  
金子昌弘

皆様ご存知のように、米国は日本のように国民皆保険ではなく、民間の保険会社と契約するのが原則ですが、これらに加入できない人々のために、公的なメディケアとメディケイドという二つのシステムがあり、高齢者や低所得者の保険をカバーしています。

今回、この二つのシステムにおいて一定の条件の人々がCTで肺がん検診を受けた場合にその費用を負担するということが決まりました。日本では検診には健康保険から費用は出ませんが、米国では、検診の費用を負担したほうが、早期に治療することで、進行がんが減少しトータルで治療費が掛からないと判断すれば、積極的に検診の費用も負担するようです。

日本では制度の違いもあり、マスコミでも全く話題になりませんでした。この情報をいち早く入手した国立がん研究センター東病院の村松放射線技師長から、そのいきさつなどを解説していただきました。

---

## 米国で低線量肺がん CT 検診に保険適用が決定

国立がん研究センター東病院 放射線診断科  
村松禎久

ある仕事をきっかけに AuntMinnie (<http://www.auntminnie.com>) を購読するようになった。2010年11月4日に Breaking News "NLST results show drop on lung cancer deaths with CT" が配信され、急いで仲間に転送したことを思い出す。

あれから4年の歳月が流れ、2014年11月10日に衝撃的な News "CMS says yes to CT lung cancer screening for seniors" が飛び込んできた。News の詳細は CMS (Centers for Medicare & Medicaid Services) のホームページ [1](#) をご覧になっていただくとして、概要は「肺疾患症状がなく、30年以上の喫煙者または15年以上の喫煙歴のある55~74才を対象として、年1回の肺がんCT検診に対し健康保険を適用すること」をCMSが

決定したものである。対象者が限定されているとはいえ、米国において健康保険が検診に適用されるなんて、もちろん日本でもあり得ない話である。これは衝撃的と表現せざるを得ない事実である。

少し経緯を書こう。実は Dr. Michael McNitt-Gray (Dr. Mike: Prof. UCLA) から少し状況をお聞きしていた。(Dr. Mike とは、ある仕事をきっかけに、以来、事あるごとにご指導をいただいている。) 花井耕造副代表理事から「肺がん CT 検診認定機構の認定技師制度について RSNA 2014 に演題を出したい」と登録締め切り数日前に指示があり、長尾啓一前代表理事のご尽力もあり何とか抄録が出来上がった。すぐに Dr. Mike に Native Check を受けると「すごく興味ある内容だ。米国では今まさに肺がん CT 検診が保険適用されるかどうかのせめぎ合いをしている。勝負は 4 月 30 日に開催される公聴会<sup>2)</sup>だろう。」と修正された抄録とともにリアルタイムで返信が届いた。

公聴会は全世界にリアルタイムに配信され、有識者の代表のひとりとして Dr. Mike が肺がん CT 検診の被ばくについて解説する姿が PC モニターに映し出されていた。この夏休みに渡米した際に Dr. Mike に会う機会があり「すごく緊張した。しかし、あまり状況は思わしくなく、吉報の可能性は低い。結論は 11 月中旬に CMS から示される」と珍しく陰しい面持ちであった。

しかし、その理由はまだ理解していないが、CMS はこれを認めた。エビデンスは前述した対象者だけとはいえ、喫煙者または喫煙歴のある方だけを保険対象とすること自体、不条理にも見える。関係者たちは「喧々諤々議論を交わした私たちはここで一つになって、この事業に対して精度の高いかつ効率的な運営システムを構築しよう」と語り、ACR (American College of Radiology) からは専用の Data Registry が「The ACR Lung Imaging Reporting and Data System (Lung-RADS)」として 2015 年第 2 四半期中に提供される。そして RSNA 2014 では間違いなくこの話題が、どこの会場でもロビーでも No. 1 になるだろうと言われている。

残念ながら日本ではこの話題はほとんど報道されていない。Google 検索も Yahoo News も引っかかってこない。仲間に転送するもレスポンスが良くない。まずいと思い、知人の新聞記者に情報を届けると「そんなことが起こっていたのですか？」という返信でやはり知らない。唯一、診療報酬制度に深い造詣と経験を持つ若い飲み仲間の放射線科医が「おおっ！」とリアルタイム返信、さすがその道にいる…わかっている。

肺がん CT 検診が日本から世界に発信されて以来、NLST まで頭一つリードしてきたが、CMS の決断で米国が爆発的な加速度で進むことは容易に想像できる。Dr. Mike から「RSNA 2014 で Dr. Hanai は来るのか？会えるのか？」と連絡が着た。(返信：はい、行きます。)

日本はどうする？このビッグチャンスを逃すことは、日本国民に対し見えない罪を犯すことになるかもしれない。

いのはな便りの執筆の機会を与えていただきました、金子昌弘代表理事に感謝申し上げます。

文献

- 1) Proposed Decision Memo for Screening for Lung Cancer with Low Dose Computed Tomography (LDCT) (CAG-00439N), CMS.gov
- 2) MEDCAC Meeting 4/30/2014 - Lung Cancer with Low Dose Computed Tomography -, CMS.gov

---

## 本機構主催の講習会などのお知らせ

### 認定医師用読影トレーニング

認定医師用読影トレーニングが下記の期間行われます。これは認定医師更新のための必須項目（7単位）で、5年の認定期間内に1度以上の受講が必要です。

解答期間：平成26年10月1日（水）～12月31日（水）

アクセス方法：<http://www.ct-kensin-nintei.jp/ishi/training/>

ホームページ「医師に関する情報はこちら」より

左側医師メニュー「認定医師用読影トレーニング」内

※症例PDFを開くためにはパスワードが必要です。

認定医師の皆様にはパスワードをメールにてご案内させていただきました。届いていない方がいらっしゃいましたら、事務局までご連絡ください。

※読影結果をお送りいただけましたら、トレーニング終了証明書をお届けいたします（来年1月の予定）。

※正解と解説は解答期間終了後にホームページ上で公開いたします。

※このトレーニングはあくまでも自己研鑽のためのものであり、試験ではありません。

### 第8回 認定医師更新講習会 兼 認定医師新規認定講習会

・日時：2015年2月14日（土曜）

・場所：大阪国際会議場

詳細は決定次第、HPへ掲載いたします。

### 第13回 肺がんCT 検診認定技師 定期講習会

- ・日時：2015年2月28日（土曜）3月1日（日曜）
- ・場所：駒沢大学
- ・詳細：<http://www.ct-kensin-nintei.jp/gishi/workshop/>

### 第6回 肺がんCT 検診認定技師 更新講習会

- ・日時：2015年2月28日（土曜）
- ・場所：駒沢大学
- ・詳細：<http://www.ct-kensin-nintei.jp/gishi/koushin/kousyukai/>

---

## 関連学会等主催の会議

### 第22回 日本CT検診学会学術集会

- ・日時：2015年2月13日（金）～14日（土）
- ・場所：大阪国際会議場 1003号室
- ・大会長：中山 富雄（大阪府立成人病センターがん予防情報センター）
- ・詳細：<http://plaza.umin.ac.jp/~jscts22/>

本機構の設立母体となった、最も密接な関係のある学会の学術集会です。今回の大会長の中山先生はCT肺がん検診の有効性を検討する研究班の班長も長年勤められておりますので、今回の大会でも効果に関する内外の研究の紹介やそれに関するシンポジウムも企画されております。

認定医師の更新講習会も併設して行われますので、ぜひお誘いあわせの上ご参加することをお勧めします。

\*\*\*\*\*

### 編集後記：

長野県北部で地震があり、多数の家屋が倒壊しましたが、死亡者が出なかったのが不幸中の幸いで、これが木造住宅の密集地域であったらこのような被害では到底済まされなかったと思います。

今後もこのような災害は日本全国で起きる危険性がありますが、阪神淡路大震災の際には、病院機能も麻痺してしまい、放射線医学総合研究所で完成したばかりのCT検診車が神戸にいち早く駆けつけて活躍したことを思い出しました。

検診と救急というと、対象は正反対のように思われますが、現場に出向いて活動するという意味では共通点もあります。いざとなれば野戦病院に変身できる検診車が、日本のような地震列島では必要かもしれません。多目的に使える検診車の開発も期待したいと思います（文責：金子昌弘）

---

いのはな便り 第7号 2014年11月29日発行  
〒260-0856 千葉市中央区亥鼻3-6-6 イノハナビル3階  
有限会社エッセン内 「肺がんCT検診認定機構事務局」  
編集責任者 金子昌弘  
TEL : 043-226-1298  
FAX : 043-226-1299  
E-mail: jimdai@ct-kensin-nintei.jp  
WEBSITE: <http://www.ct-kensin-nintei.jp/>